

令和2年8月10日

稲作情報 第7号



中央部営農センター	TEL: 22-2127	北部営農センター	TEL: 65-2016
東部営農センター	TEL: 55-4712	西部営農センター	TEL: 32-3160
営農生活部米穀課	TEL: 27-1601	秋田県農業共済組合 由利支所	TEL: 24-3301
由利地域振興局 農業振興普及課	TEL: 22-8354		

出穂期を迎えます。籾の着粒数は幼穂形成期の栄養状態ですでに決定しております。これからの管理は稔実した籾をいかに減退させずに大きく、充実したものにできるかが重要となります。玄米の充実が収量の充実に繋がります。

●水管理

- ①出穂時は水を多く必要とします。出穂後10日間ほどは水深5~6cm程度で湛水状態(花水)とします。その後は2~3cm程度で間断かん水とします。
- ②高温時は水温も高くなりますので、水の入れ替えを行って下さい。(水分ストレスによる乳白粒等の発生を抑制します)
- ③落水の時期は出穂30日後とします。早期の落水は葉色の低下、枯れ上がり、根の活力低下による登熟不良の原因となります。刈取り作業を考慮し、落水のタイミングが早まっていると思われるが、早期の落水は避けてください。
- ④台風の発生があった場合は、その後にフェーン現象の発生が考えられます。フェーン現象が発生した場合、異常な高温により枯れ上がりが発生する場合がありますので台風前に湛水状態とし、フェーン現象に対応できるようにしてください。

●病害虫防除について

7月に降雨と湿度の高い日が続き、葉いもち病の発生が散見されました。**葉いもちが発生した場合、穂いもちの発生へつながる可能性が高くなります。**特に、8月下旬頃から9月にかけて高温多湿となる場合は発生が多くなります。出穂前にコラトップ剤等での防除を実施している圃場もあると思われるが、**万が一葉いもち等の後期発生が確認された場合は、早急に防除**するようお願い致します。疑わしい病斑が見られた場合はすぐに、最寄りの営農センターか本店米穀課の指導員までご相談下さい。

いもち病治療剤

ブラシン剤

粉剤DL 3~4kg/10a

フロアブル 100~150ℓ (1000倍) /10a

- ①ブラシン剤の使用時期は**収穫7日前まで**です。
- ②ブラシン剤の**使用回数は2回まで**です。またブラシン剤には**フサライドとフェリムゾン**という2つの成分が含まれています。これらの成分にも使用回数がありフサライドが3回以内、フェリムゾンが2回以内となっております。**ヘリ防除の日程を加味しながら、いもち病が発生した際に対応できるように使用回数には注意**しましょう。
- ③散布する場合は、**基本的に好天日を選んで行いますが**、早急の防除が必要でやむを得ず雨期間中の散布となる場合は液剤よりも粉剤の防除効果が高くなります。

●紋枯病について

出穂後に高温多湿となる年に発生が多くなる。発生株が圃場全体の2割以下であれば防除は必要ありません。発生がひどい場合は減収の可能性がありますので防除してください。

モンカット剤

フロアブル (1000~1500倍) /10a

(収穫14日前まで)

モンセレン剤

粉剤DL 3~4kg/10a

フロアブル (1500倍) /10a

(収穫21日前まで)



●メールマガジンについて

稲も生育後期となり、収穫時期が近づいてきております。出穂期以降の栽培管理、気象災害対策の適期配信に努めてまいります。まだ、登録されていない方は、ぜひ登録し、ご活用下さい。お持ちのスマートフォン、携帯電話のメールアドレスで簡単に登録できますのでよろしくお願い致します。

